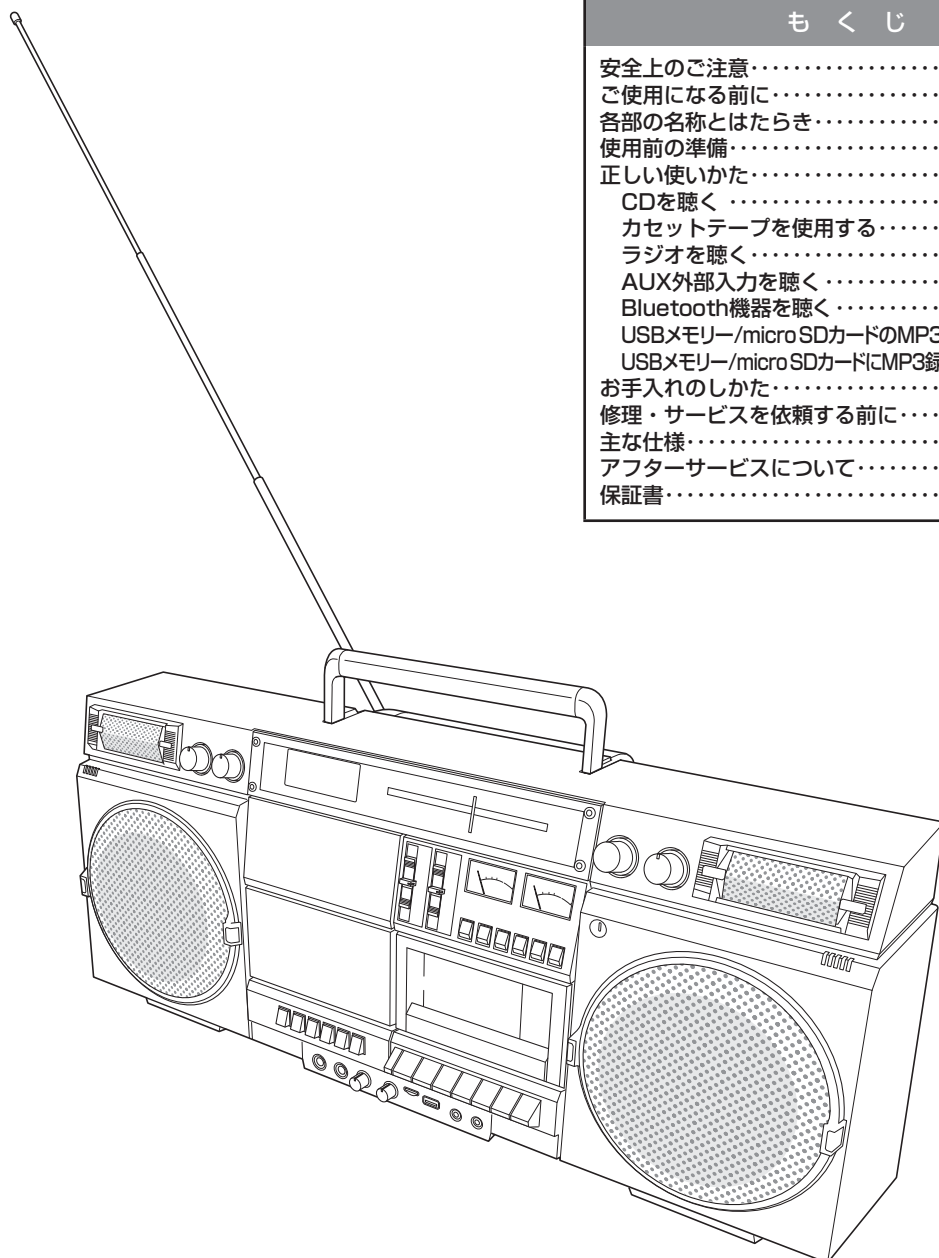


ORION

Bluetooth[®]機能搭載CDステレオラジオカセット SCR-B9

取扱説明書・保証書

このたびは、当社製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。正しくご使用いただくために必ずこの取扱説明書をよくお読みください。なお、お読みになられたあともいつでも見られるように大切に保管してください。



も く じ

安全上のご注意	P. 2
ご使用になる前に	P. 4
各部の名称とはたらき	P. 6
使用前の準備	P. 8
正しい使いかた	P. 10
CDを聴く	P. 12
カセットテープを使用する	P. 16
ラジオを聴く	P. 19
AUX外部入力を聴く	P. 20
Bluetooth機器を聴く	P. 21
USBメモリー/micro SDカードのMP3を聴く	P. 23
USBメモリー/micro SDカードにMP3録音する	P. 25
お手入れのしかた	P. 27
修理・サービスを依頼する前に	P. 28
主な仕様	P. 31
アフターサービスについて	裏表紙
保証書	裏表紙

安全上のご注意

- ご使用になる前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お読みになったあとは、お使いになる方がいつでも見られるところに、必ず保管してください。

 警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。
 注意	誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性及び物的損害の発生が想定される内容を示します。 (物的損害とは、家屋・家財・家畜・ペットなどにかかる拡大損害を示します。)

図記号の意味と例

	⊘は、「してはいけないこと」を意味しています。具体的な禁止内容は、⊘の中や近くに絵や文章で示しています。(左図の場合は、「分解禁止」を示します。)
	●は「必ずすること」を意味しています。具体的な強制内容は、●の中や近くに絵や文章で示しています。(左図の場合は、「電源プラグをコンセントから抜くこと」を示します。)

警告

 禁止	交流100V以外では使用しない。 電圧の違うところ、自動車・船舶などの直流電源には接続しないでください。火災・感電の原因になります。	 禁止	本体に強い衝撃を与えたり、落下させたりしない。 衝撃を与えてしまったときは、すぐに電源プラグをコンセントから抜き、点検修理を依頼してください。そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因になります。	 指示	電池からもれた液が目に入ったときは、こすらずに水で洗い流し、医師の診察を受ける。 失明や目に障害を負う恐れがあります。
	海外で使用しない。 本製品は日本国内専用です。		乾電池を充電しない。 乾電池の破裂・液もれが起こり、火災やけが・故障の原因になります。		取りはずした乾電池の扱いに注意する。 幼児の手の届かないところに保管してください。乾電池を口に入れたり、ショートさせたりすると事故の原因になります。
	電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、束ねたり、重いものをのせたり、挟み込んだりしない。 火災・感電の原因になります。		乾電池は直射日光が当たる場所や火の近くなど高温になる場所に置かない。 液もれや破裂・火災などの原因となります。	 プラグを抜く	使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。 絶縁劣化による感電・漏電・火災の原因になります。
	電源コードや電源プラグが傷んだり、コンセントの差し込みがゆるいときは使用しない。 感電・ショート・発火の原因になります。		CDのレンズをのぞき込まない。 レーザー光が目にあたると、視力障害を起こすことがあります。		お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜く。 感電・火災・けがの原因になります。
	子供だけで使わせたり、幼児の手の届くところでは使わない。 けが・感電の原因になります。	 使用禁止	異常時(こげ臭い、発煙など)は電源プラグを抜き、使用を中止する。 火災・感電の原因になります。電源プラグは容易に手が届く位置のコンセントを使用して設置してください。	 分解禁止	分解しない。また、修理技術者以外の人は修理しない。 火災・感電・けがの原因になります。修理は販売店またはドウシヤカスタマーセンター(裏表紙参照)にご相談ください。
	本体のすき間にピンや針金などの金属物など、異物を入れない。 感電・けがの原因になります。		電源プラグはコンセントの奥までしっかり差し込む。 感電・ショート・発火の原因になります。		本書で指定された使用方法以外(分解や改造など)で使用する、CDのレーザーダイオードによる危険な放射線被ばくを引き起こす可能性があります。
	電源コードを乳幼児の手の届くところに置かない。 コードが誤って首に巻き付いたりして事故の原因になります。	 指示	電源プラグの刃および刃の取り付け面にホコリが付着している場合は拭き取る。 ホコリが付着したまま電源プラグを差し込むと、ショート・火災の原因になります。	 ぬれ手禁止	ぬれた手で、電源プラグを抜き差ししない。 感電の原因になります。
	本製品にダストブレー(エアダスター)を使用しない。 製品内部にガスが溜まった場合、引火し爆発する恐れがあります。				水につけたり、水をかけたりしてぬらさない。 ショート・感電の原因になります。
	雷が鳴り始めたら、ロッドアンテナや電源プラグに触れない。 感電の危険があります。			 水ぬれ禁止	
	ろうそくなど、炎の出るものを近くに置かない。 炎が近づくと、火災の原因になります。				

⚠ 注意

 禁止	次のようなところでは使わない。 ●ガスコンロなど炎の近く ●引火性のガスがあるところ ●雨や水しぶきがかかるところ ●ホコリの多いところ 変色・変形・火災・感電の原因になります。	 禁止	指定以外の乾電池を使用しない。 違う種類の乾電池、新旧の乾電池を混ぜて使用しない。 乾電池の破裂や液もれにより、火災・けが・故障の原因になります。	 指示	音量に注意する。 使用前には音量を最小にするようにし、使用中も音量を大きくしすぎないように注意してください。長時間、耳を刺激する大きな音量で聴き続けると聴力に悪い影響を与えます。
	窓を閉めきった自動車の中や直射日光が当たる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しない。 キャビネットや部品に悪い影響を与え、火災や感電の原因になります。	 指示	乾電池の極性に注意する。 乾電池を取り付けるとき、乾電池の+（プラス）と-（マイナス）に注意し、表示どおりに正しく入れてください。乾電池の破裂や液もれにより、火災・けが・故障の原因になります。		持ち運びするときは、ロッドアンテナをたたむ。 けがや故障の原因となります。
	不安定な場所で使わない。 転倒や落下、けが・故障の原因になります。		電源プラグを抜くときは電源コードを持たずに必ず電源プラグを持って引き抜く。 感電・ショート・電源コードの断線の原因になります。		持ち運びするときはUSBメモリーやmicro SDカードを取りはずす。 けが・故障・USBメモリーやmicro SDカードの破損の原因となります。
	通風孔をふさがない。 通風孔（放熱のための穴）をふさがないでください。内部に熱がこもり発火やけが、感電の原因になることがあります。		長時間使用しないときや、家庭用電源で使用するときは乾電池を取りはずす。 液もれにより、火災・けが・汚れの原因となります。		
	お手入れの際は住宅用洗剤・シンナー・ベンジン・アルコール・磨き粉などを使わない。 変色・変形・感電・故障の原因になります。				

ご使用になる前に

カセットテープについて

カセットテープの取り扱いについて

長期間使用していない、古いテープは使用しない。

経年劣化により、テープにカビが生えたり、磁性体がはがれやすくなっているカセットテープを使用すると、本機にダメージを与え、テープの巻き込みや切断などの原因になります。

テープのたるみをなくして使用する。

たるみは、テープの巻きつきや、切断の原因となります。

テープがたるんでいないかどうか確かめ、たるんでいるときは図のように鉛筆などで直してからご使用ください。

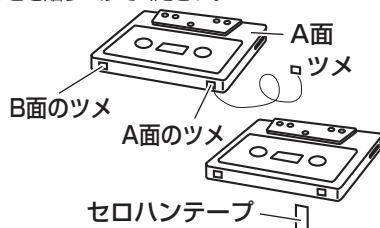
テープを本機に入れたままにしない。

長時間録音再生しない場合は、テープが傷むのを避けるため、本機に入れたままにしないでください。テープは途中で取り出さず、必ず巻き戻し、ケースに入れて立てて保管してください。

大切な録音を消さないために

録音禁止にするときには、カセットの後ろ側にある「ツメ」を折っておく。

保存しておきたいようなテープの場合には、カセットの後ろ側にある「ツメ」を折っておくと録音禁止になり、間違えて大切な録音テープに上書きせずに済みます。また、再び録音したいときは、折ったツメの部分にセロハンテープなどを貼りつけてください。



ツメを折ってあるテープは録音ボタンの操作ができません。無理に押したりすると故障する場合があります。

リーダーテープについて

カセットテープの両端のリーダーテープ部分は録音ができません。

すぐに録音を開始させたい場合には、録音の前にこの部分を送っておいてください。

テープの種類について

本製品で利用できるテープはノーマルテープのみです。

ノーマルテープ以外(メタルテープやハイポジションテープなど)は十分に性能が発揮できません。さらに、重ね録りで前の録音が消えずに残ってしまうなど、問題も発生するため、使用しないでください。

長時間テープを使わない。

90分以上のテープは変形しやすく、また伸びやすいため、なるべくご使用をお避けください。

エンドレステープを使わない。

NRについて(再生/録音)

本製品にはNR(ノイズ・リダクション:雑音除去)機能はありません。

他のカセットデッキでNRを使用して録音されたテープは、本製品で聴くと音質が異常に聴こえます。

著作権について

あなたが録音したものは個人として楽しむなどの他は著作権法上、権利者に無断で使用できません。

USBメモリー、microSDカードについて

USBメモリー

・ファイルシステム FAT32

・USB2.0対応

本機は、USBマストレージクラスデバイスにのみ対応しています。お使用のUSB機器がUSBマストレージクラスであるかは、直接USB機器の発売元にお問い合わせください。

※ 本説明書では接続できるUSB機器を「USBメモリー」と記載しています。

・本機で利用できるUSBメモリーは64GB以下です。

・USBハブを介してUSB機器を使うことはできません。

・本機では、USBメモリー内のファイルを移動させることはできません。

・機器の状態によっては正常に動作しないことがあります。

micro SDカード

・ファイルシステム FAT32

・本機で利用できるSDカードは、micro SDカードタイプ 64GB以下です。(標準)SDカード・ミニSDカードを使用することはできません。

・本機ではmicro SDカード内のファイルを移動させることはできません。

・micro SDカードには、誤消去防止スイッチがありませんので、ご注意ください。

※ 本書(取扱説明書)などで本機で使用する「micro SDカード」のことを「SDカード」と記述することがあります。

MP3について

本機ではUSBメモリーやmicroSDカードに記録されたMP3(MPEG-1 Audio Layer-3)ファイルを再生することができます。

パソコンなどを使ってMP3のデータを作成する際は、使用するソフトの説明をよくお読みください。

・正式名称をMPEG-1 Audio Layer-3という音声圧縮の規格。

・MP3データの認識はファイル拡張子「.mp3」で行ないます。ファイル名には必ず拡張子「.mp3」を付けてください。拡張子「.mp3」のないファイルは本機では再生できません。また、ファイル名に拡張子「.mp3」を付けていてもMP3データ形式でないファイルは再生できません。

・ビットレート 96 ~ 320 kbps(推奨)

・サンプリング周波数32kHz/44.1kHz/48kHz

・999以上のファイルまたは99以上のフォルダが記録されたUSBメモリーまたはmicro SDカードは、正常に再生できないことがあります。

・可変ビットレートで記録されたファイルは、正常に再生できないことがあります。

・データの状態によっては、本機では再生できなかったり、音が途切れることがあります。

CDについて

結露について

寒いところから急に暖かいところに移動させると、レンズに水滴がついたり、曇ったりする結露現象が起こります。

この状態でご使用になると、正しい動作をしないことがあります。このようなときは、ディスクを取り出して、1時間程放置してください。

ディスク使用上の注意



コピーコントロールCD(CCCD)やDual Discなど、CDの標準規格に準拠していない特殊なディスクは正しく再生できないことがあります。

たものをご使用ください。

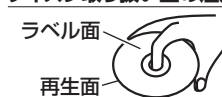


ひびやそりのあるディスクは絶対に使わない。
再生中、ディスクはプレーヤー内で高速回転しています。ひびや割れや変形したディスク、またはテープや接着剤で補修したディスクなどは危険ですから絶対に使用しないでください。



ハート型や八角形型などの特殊形状のディスクは使用しない。
機器の故障の原因となります。

ディスク取り扱い上の注意



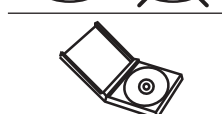
再生面を触れないように持つ。



再生面はもちろん、ラベル面にも紙やテープなどを貼らない。



ディスクに指紋や汚れが付いたときは、柔らかい布などで、放射状に軽く拭き取る。



長い時間使用しないときは、本機から取り出し、ケースに入れて保管する。

※クラス1レーザ製品です。

Bluetoothについて

Bluetooth(ブルートゥース)

本機はBluetoothの無線技術・ワイヤレスシステムを搭載しています。
対応するプレーヤー、携帯電話などの音楽をワイヤレスで聴くことができます。

電波に関する注意事項

本機の使用周波数帯では、産業・科学・医療用機器などのほか、工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を要する無線局)および特定小電力無線局(免許を要しない無線局)などが運用されています。

- ・本機を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
- ・万が一、本機から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、すみやかに電波の発射を停止してください。

通信について

- ・Bluetooth対応のマウスなどのパソコン関連機器と、ヘッドホンなど音楽機器を同時に使用すると、音が途切れたりすることがあります。
- ・本機などのBluetooth機器は無線LAN機器(IEEE802.11b/g/n)と同じ周波数帯(2.4GHz)を使用するため、近くで使用すると電波障害を互いに発生させて、通信速度低下や接続不能になることがあります。このような場合は、使用周波数を変更するか、できるだけ離して(10m程度)使用します。
- ・本機はすべてのBluetooth機器と接続を保証するものではありません。また接続するまで時間がかかるものがあります。
- ・Bluetooth機器どうしの接続で、対応する規格、周波数帯域、プロファイルの種類などによって接続できないことがあります。

安全にご使用いただくために

Bluetooth機器が発生する電波は、電子医療機器などに影響を与えることがあります。場合によっては事故をひきおこすこともありますので、以下のようなところでは持ち込まない、または電源を入れないようにしてください。

- ・病院など医療機関、電車・航空機
- ・自動ドアや火災報知機の周辺
- ・心臓ペースメーカー、医療用電子機器の近く

Bluetooth機能を搭載したセットを改造して使用したときは電波法に抵触します

本機は電波法に基づく特定無線設備の技術基準適合証明などを受け、その証として「技適マーク」が本機の裏面に表示されています。改造すると、技術基準適合証明が無効となります。

無効状態で使用すると、電波法に抵触しますので絶対に改造しないようにお願いします。

Bluetooth機能は日本国内で使用してください

本機のBluetooth機能は、日本国内での無線規格に準拠し認証を取得しています。海外でご使用になると罰せられることがあります。

Bluetooth®ワードマークおよびロゴは登録商標であり、Bluetooth SIG, Inc. が所有権を有します。
株式会社ドウシシャは使用許諾の下でこれらのマークおよびロゴを使用しています。その他の商標および登録商標は、それぞれの所有者の商標および登録商標です。

Bluetooth部 仕様	
適合規格	Bluetooth Ver.5.3
通信出力	Class2
使用周波数帯域	2.4GHz 帯 (2.402 ~ 2.480GHz)
変調方式	G FSK.
プロファイル	A2DP, AVRCP
対応コーデック	SBC
通信距離*	(見通し) 約 10 m*
同時接続台数	1 台
記憶可能ペアリング台数	1 台

* 通信距離は目安です。周囲の環境により距離が変わることがあります。
お使いのBluetooth機器によっては接続できないことがあります。詳しくはお使いのBluetooth機器の説明書をご確認ください。

使用環境について

結露について

- ・寒いところから急に暖かい場所へ移動させると、内部に水滴が付いたりする結露現象が起きます。
- ・この状態で使用すると、正しい動作をしないことがあります。このようなときは、電源を入れて1時間程度放置してください。内部の熱で結露が取り除かれ、正常に動作するようになります。

乾電池について

乾電池を扱うときには

- ・指定以外の乾電池は使用しない。
 - ・新しい乾電池と古い乾電池、種類の違う乾電池を混ぜて使用しない。
 - ・極性表示を間違えないで挿入する。
 - ・水や火の中に入れたり、充電・加熱・分解・ショートしない。
 - ・液もれがおきたら使用しない。
- 乾電池はもちろん、本体も液がついた状態で使用すると危険なため、直接触れずに拭き取るようにし、販売店にご相談ください。
- 万が一、液が体に付いてしまった場合は、水で十分に洗い流すようにしてください。
- ・長時間使用しないときや、家庭用電源で使用するときは乾電池を取りはずす。
 - ・使いきった乾電池や、使用推奨期限の過ぎた乾電池もはずしておく。

FM補完放送について

FM補完放送(ワイ・エフエム補完放送)

- ・AM放送の放送区域において難聴・災害対策のため、FM放送の周波数(従来の76~90MHz、新たに設定された90.1~95MHz)を用いて、AM放送の補完的な放送をしています。

本機はFM補完放送に対応しています。

※FM補完放送を実施している放送局、周波数、聴取エリアなどは地域によって異なります。詳しくは各地域の放送局ホームページなどを確認してください。

著作権について

- ・本機でお客様がカセットテープ・ラジオ放送などから録音したものは、個人として楽しむなどのほかは著作権法上、権利者に無断で使用できません。

免責事項について

お客様、または第三者が、この製品の誤った取扱・故障・その他の不都合またはこの製品の使用によって受けられた損害については、法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

製品の故障・誤動作または不都合によるテープやメモリーなどへの記録された内容の損害及び録音・再生など、お客様または第三者が製品利用の機会をのがしたために発生した損害など、付随的損害の補償については、当社は一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

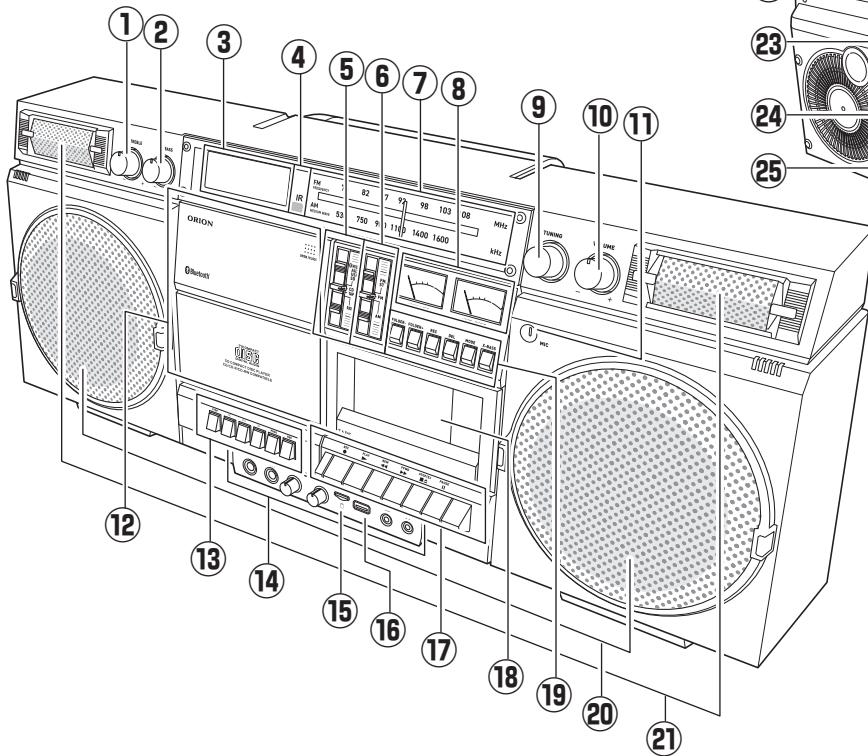
録音されたものの使用についても、当社は一切の責任を負いません。

カセットテープはフィルムに粉末状の磁性体を塗布したものです。長年ご使用になっていないテープや長時間使用されたカセットテープなどは磁性体が剥がれやすく、またカビなどが発生している場合があります。そのようなテープを再生、録音した場合、本体のカセットヘッドやピンチローラーの故障の原因となります。またお客様のカセットテープの巻き込みや破損の原因となります。

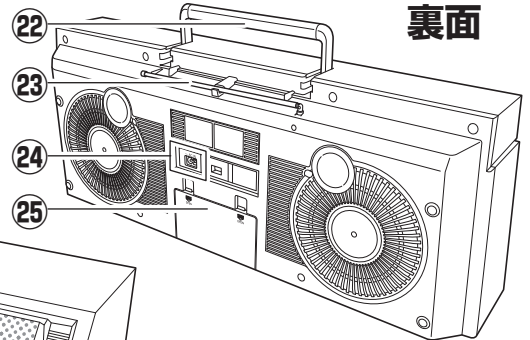
ご使用されたカセットテープが原因での本機の故障については、保証期間であっても保証対象外となります。またテープの巻き込みや破断、破損については、当社は一切の責任を負いません。

各部の名称とはたらき

前面



裏面



前面

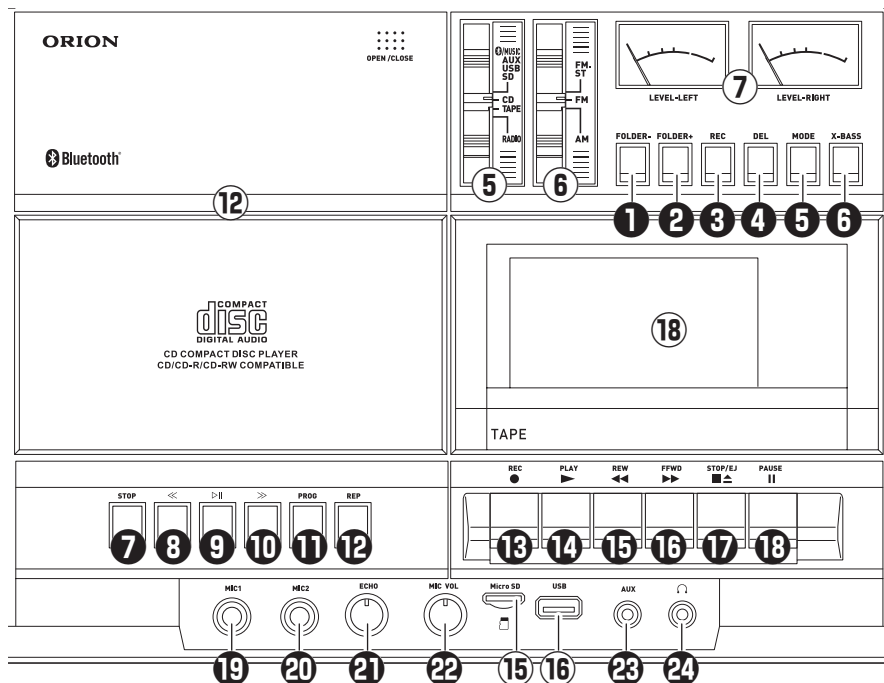
- ① **TREBLEつまみ**
高音域の調節をします
- ② **BASSつまみ**
低音域の調節をします
- ③ **液晶表示部**
主にCDの状態などを表示します
- ④ **リモコン受光部**
リモコン送信部からの信号を受信します
- ⑤ **MODEスイッチ**
・BT/AUX/USB/SD: AUX外部入力・Bluetooth・USBメモリー・micro SDカード
・CD
・TAPE: カセットテープ(電源切)
・RADIO: ラジオ
- ⑥ **BANDスイッチ**
ラジオのバンド(AM/FM/FM ST)の切替
- ⑦ **周波数表示**
ラジオの選局に使用します
- ⑧ **出力レベルメーター(左・右)**
音の強弱に合わせて針が動きます
- ⑨ **TUNINGつまみ**
ラジオの選局をします
- ⑩ **音量つまみ**
音量の調節をします
- ⑪ **内蔵マイク**
まわりの音を録音するときに使用します
- ⑫ **CDフタ**
右上を押してフタを開き、内部にCDを取り付けます

- ⑬ **CD/USB/microSD/BT操作部 ⑦～⑫**
CD/USB/microSD/BT関係の操作をします(➡7ページ)
- ⑭ **入出力関係 ⑬～⑲**
マイクやヘッドホンを接続する端子や調節するつまみがあります(➡7ページ)
- ⑮ **microSDカードスロット**
microSDカードを取り付けます
- ⑯ **USB端子**
USBメモリーを取り付けます
- ⑰ **カセットテープ操作部 ⑬～⑲**
カセットテープの操作をします(➡7ページ)
- ⑱ **カセットホルダー**
カセットテープを入れます
- ⑲ **CD/USB/microSD/BT操作部 ①～⑥**
CD/USB/microSD/BT関係の操作をします(➡7ページ)
- ⑳ **フルレンジスピーカー**
- ㉑ **ツイータースピーカー**

裏面

- ㉒ **キャリングハンドル**
本体の持ち運びをするときに使用します
- ㉓ **ロッドアンテナ**
FM放送を聴くときに伸ばし、受信しやすい方向に調節します
- ㉔ **電源端子**
付属の電源コードを接続します
- ㉕ **電池ふた**

操作部



CD/USB/micro SD/BT操作部

カセットの上

- ① **FOLDER-** FOLDER-ボタン
- ② **FOLDER+** FOLDER+ボタン
フォルダの選択
- ③ **REC** RECボタン
CD/ラジオ/AUX/Bluetooth接続音源などのUSB/micro SDへの録音
- ④ **DEL** DELボタン
再生中の曲の削除、(USB/micro SD)録音の停止
- ⑤ **MODE** MODEボタン
モード(Bluetooth/USB/micro SD)の切替
- ⑥ **X-BASS** X-BASSボタン
重低音の入/切

CDの下

- ⑦ **STOP** STOPボタン
CD(USB/micro SD)の停止
- ⑧ **<< REW**ボタン
曲順をひとつ戻す 長押しで早戻し
- ⑨ **>>||** PLAY/PAUSEボタン
CD(USB/micro SD/BT)の再生/一時停止
- ⑩ **>>>** FFボタン
曲順をひとつ送る 長押しで早送り
- ⑪ **PROG** PROGボタン
プログラムモードの入/切

- ⑫ **REP** REPボタン
リピートモードの選択(1曲/全曲/ランダム/切)

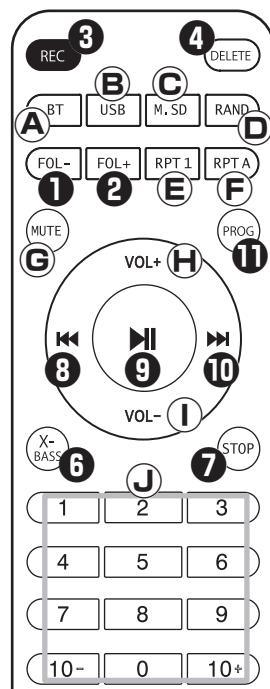
カセットテープ操作部

- ⑬ **REC**ボタン
CD/ラジオ/MP3/Bluetooth接続音源などのカセットテープへの録音
- ⑭ **PLAY**ボタン
カセットテープの再生
- ⑮ **REW**ボタン
カセットテープの巻戻し
- ⑯ **FFWD**ボタン
カセットテープの早送り
- ⑰ **STOP/EJ**ボタン
カセットテープ動作の停止/カセットホルダーを開きます
- ⑱ **PAUSE**ボタン
カセットテープ再生/録音の一時停止

入出力関係

- ⑲ **MIC1端子/MIC2端子**
標準プラグのマイクを2本接続できます
- ⑳ **ECHOつまみ**
接続したマイクの音にエコーをかけ、調節します
- ㉑ **MIC VOLつまみ**
接続したマイクの音量を調節します

リモコン



- ㉒ **AUX端子(外部入力端子)**
外部機器を接続します
- ㉓ **ステレオイヤホン端子**
ヘッドホンやイヤホンを接続します。3.5mm3極ステレオミニプラグに対応しています(接続するとスピーカーの音が消えます)

リモコンのみ

- Ⓐ **BTボタン**
Bluetoothモードへ直接切り替え
- Ⓑ **USBボタン**
USBモードへ直接切り替え
- Ⓒ **M.SDボタン**
MicroSDモードへ直接切り替え
- Ⓓ **RANDボタン**
ランダム再生へ直接切り替え
- Ⓔ **RPT 1ボタン**
1曲リピート再生へ直接切り替え
- Ⓕ **RPT Aボタン**
全曲リピート再生へ直接切り替え
- Ⓖ **MUTEボタン**
消音(再度押すと元の音量に戻る)
- Ⓗ **VOL+ボタン**
① **VOL-ボタン**
音量の調節をします
- Ⓙ **ダイレクト選曲ボタン**
選曲やプログラムなど数値を入力して行なうことができます

使用前の準備

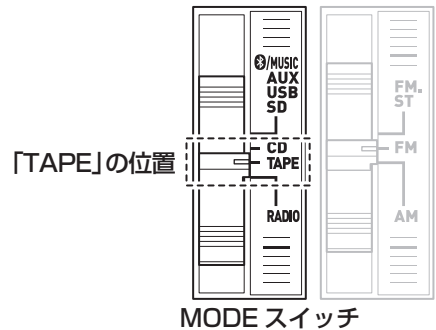
お買い上げ後、同梱の部品を確認してください。

本体	1 台	リモコン用単4形乾電池(テスト用)	2個
電源コード	1 本	取扱説明書(保証書含む)	1冊
リモコン	1 台		

電源の準備

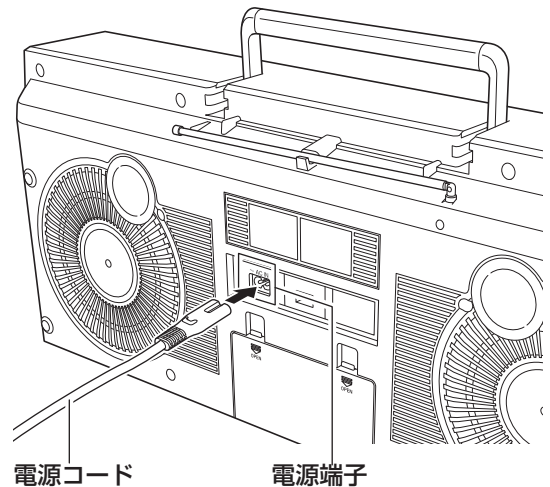
家庭用電源または乾電池で使うことができます。

- ・家庭用電源で使われる場合は必ず乾電池を取りはずしてご使用ください。
- ・本体に乾電池が入っている場合、電源プラグをコンセントに接続すると、家庭用電源に切り替わります。乾電池で使われる場合は、電源プラグをコンセントから抜き、電源コードを本体から取りはずしてください。



家庭用電源で使用する場合

1. MODEスイッチを「TAPE」の位置にする
2. 電源コードを、本体裏面の電源端子に差し込む
3. 電源プラグを、コンセントに差し込む

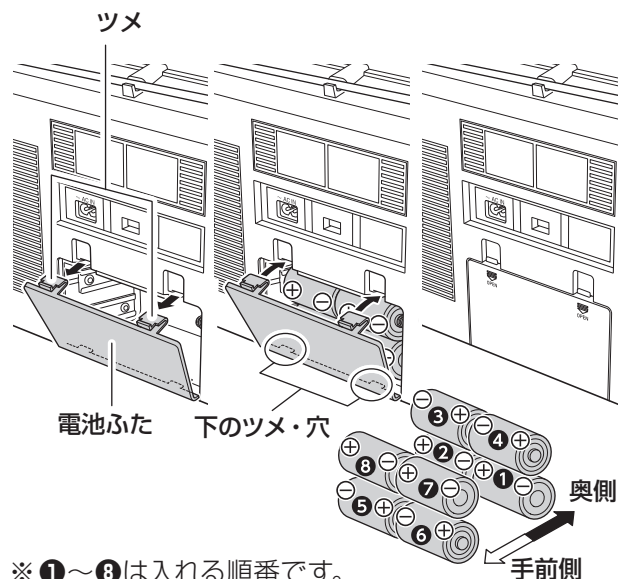


乾電池で使用する場合

1. MODEスイッチを「TAPE」の位置にする
2. 本体裏面の電池ふたをはずし、単1形アルカリ乾電池8本(別売)を右図のように入れる

電池ふたのツメを押し下げながら、手前に引いて、電池ふたをはずしてください。

- ・乾電池の⊖(マイナス)側を先に入れ、ばね側に押し込んで⊕(プラス)側を入れるように順番に入れてください。



※ ①～⑧は入れる順番です。

※ 本体の電池取付部・奥にある電池マークの数値は、電池を入れる順番ではありません。

警告	・乾電池は+とーの向きに注意して入れる。火災・故障の原因になります。 ・長時間使用しないときや、家庭用電源で使用するときは乾電池を取りはずす。
------------------	--

※「乾電池について」(➡5ページ)もお読みください。

3. 電池ふたを取り付ける

電池ふたの下のツメを本体底面の穴にはめてから、電池ふたのふたつのツメがカチッと音がするまで押し込んでください。

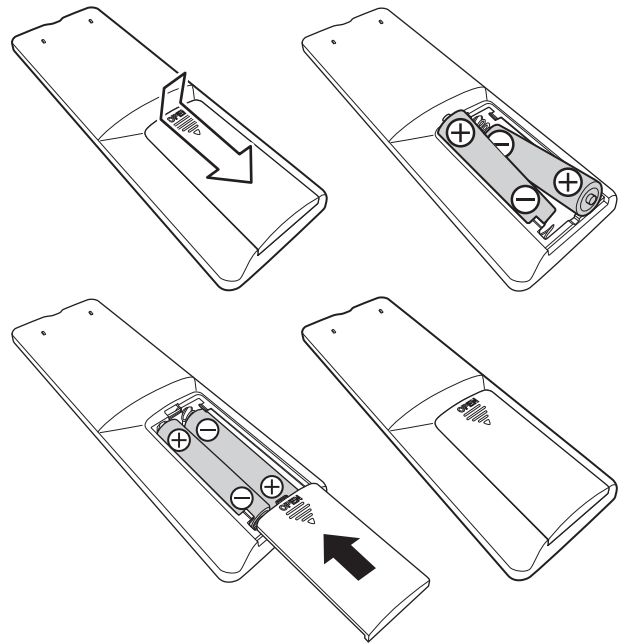
リモコンに電池を入れる

※ 付属の電池は動作確認用です。早めに新しい電池と交換してください。

※ ボタンを押しても動作しない、動作が不安定なときには、新しい電池（単4形乾電池）を用意して、以下の方法で電池を交換してください。

1. リモコン裏面のマーク部分を押しながらスライドさせて裏フタをはずす
2. 電池の極性（ $\oplus$ $\ominus$ ）に注意して、電池を取り付ける

電池は $\ominus$ （ばね側）を先に入れてから、 $\oplus$ 側を入れてください。



注意

- 電池の破裂や液もれを防ぐため、 $\oplus$ $\ominus$ を正しく入れる。
- 電池を無理に押し込んでばねを押しつぶさない。

3. 裏フタを取り付ける

カチッと音がするまでスライドさせてください。



注意

- 長時間リモコンを使用しないときは、電池を取りはずす。
- 電池の充電・ショート・分解・火への投入・加熱などはしない。
- 万一、液もれが起こったときは、よく拭き取ってから新しい電池を入れる。

リモコン使用可能範囲

- リモコンの操作は、リモコン受光部の正面から約6メートル、左右30度、上下20度の範囲でお使いください。
- ※ 次のようなとき、正しくリモコンが動作しないことがあります。
- リモコンと本機の間には障害物があるとき
 - 直射日光や蛍光灯の強い光が受光部に当たっているとき。
 - 赤外線を出す機器の近くで使用したとき。

正しい使いかた

音量・音質を調節する



大音量での再生に注意する。
周囲に迷惑をかけるだけでなく、聴力に影響をおよぼす場合があります。

1. 音量つまみを回して、適切な音量に調節する

音量つまみを左に回すと音量が小さくなり、右に回すと音量が大きくなります。電源を入れるときなど、音量を最小にしてください。

2. TREBLEつまみ(高音)・BASSつまみ(低音)を回して、音質を調節する

つまみを右に回すと各音域が強調されます。液晶表示部に数値が表示されます。

3. 低音を強調する(重低音)場合は、X-BASSボタンを押す

低音が強調されます。

- ・X-BASSボタンを押すたびに重低音が入／切されます。
- ・「入」のときは液晶表示部右上に「BASS」が点灯します。

イヤホンを使用する

1. 音量つまみを左に回し、音量を最小にする

2. 本体前面下側にあるステレオイヤホン端子にイヤホンを接続する

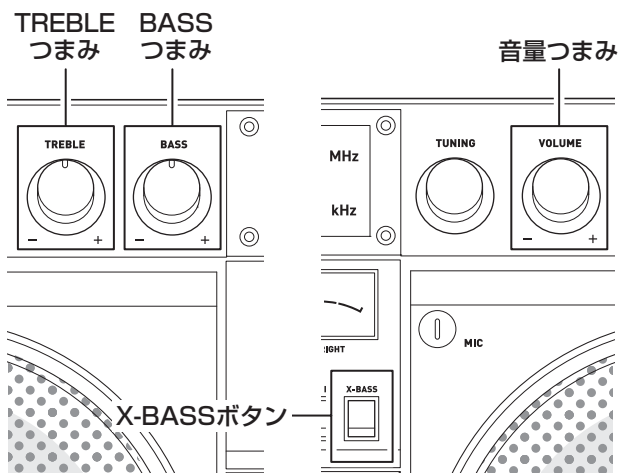
ステレオイヤホン端子にイヤホンを接続すると、スピーカーから音が出なくなります。接続したイヤホンを取りはずすと音が出るようになります。

※本機のステレオイヤホン端子は 3.5 mm3極ステレオミニ端子です。

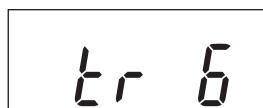
3. 音量つまみを回して、適切な音量に調節する



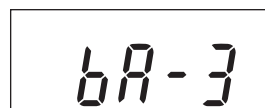
イヤホンを使って大音量で長時間聴くことはしない。
聴力に影響をおよぼす場合があります。



TREBLE(高音)調節の例



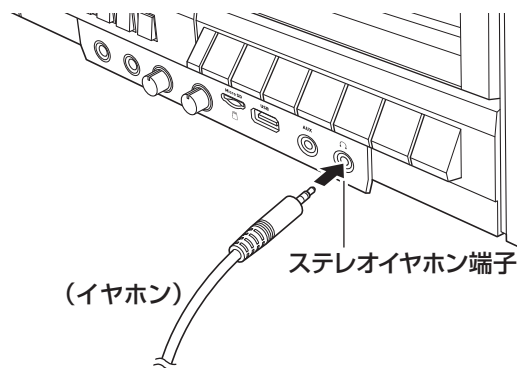
BASS(低音)調節の例



X-BASS入のとき点灯



(CD再生しているときの例)



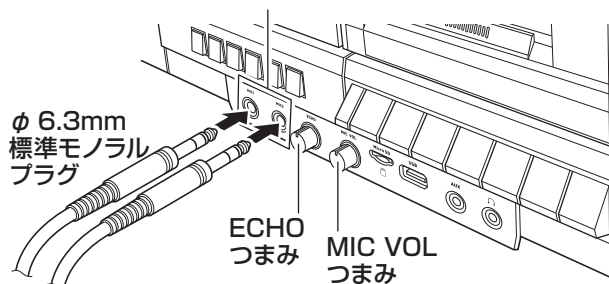
マイクミキシング機能を使う

本機では同時に2本のマイクを使うことができます。2本のマイクは必ず同じ種類のマイクを使用してください。

マイク入力端子：標準モノラルプラグ(φ6.3)×2系統
※ミニプラグ(φ3.5)のマイクを使用する場合は、市販の変換プラグ(ミニプラグ→標準プラグ)を購入してください。

※ダイナミックマイクを使用してください。プラグインパワーマイクとコンデンサーマイクは使用できません。

ステレオマイクには対応していません。



1. MODEスイッチを操作し、バックに流す音を流し、音量を調節する

MIC VOLつまみで、マイクの声が入ることを考えて、少し低めに設定してください。

・外部入力(AUX)の場合は、入力機器の音量調節も調節してください。

2. マイクの音の音量を調節する

MIC VOLつまみを回して、音のバランスを調節してください。

3. 音量つまみを回して、全体の音量を調節する

電子エコー機能

本体操作パネルのECHOつまみでお好みの強さに調節することができます。

・マイク端子がMIC1とMIC2あるのはデュエット用であり、左右に分かれることはありません。

拡声器として使う場合

AUXモードにして、AUX端子に接続せずに使用するかAUX端子に接続した機器で曲を再生せずにマイクを使用してください。



ハウリングに注意する。

マイクミキシング中、マイクをスピーカーに近づけないように注意してください。突然大きな音が出る場合があります。

4. 使用後はMIC VOLつまみを左に回して、音量を最小にして、マイクを取りはずす

電源を切る

使用を終えたときは、乾電池や家庭用電源をムダに消費しないように、以下の操作をします。

1. 音量を最小にして、MODEスイッチを「TAPE」の位置にする

大音量のまま電源を切ると、次回使用するとき大音量が出て、耳やスピーカーに悪影響をおよぼす原因になります。



使用後は必ず電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

火災・故障の原因になります。

CD を聴く

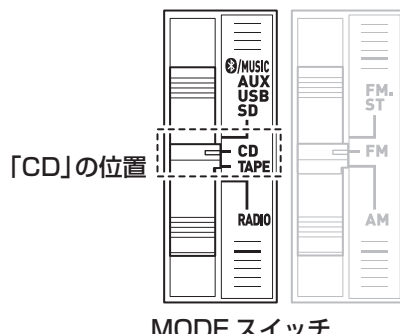
CDを操作するには、本体左下のCD操作部を使います。

※「CDについて」(➡4ページ)もお読みください。

CDを通常再生する

1. MODEスイッチを「CD」の位置にする

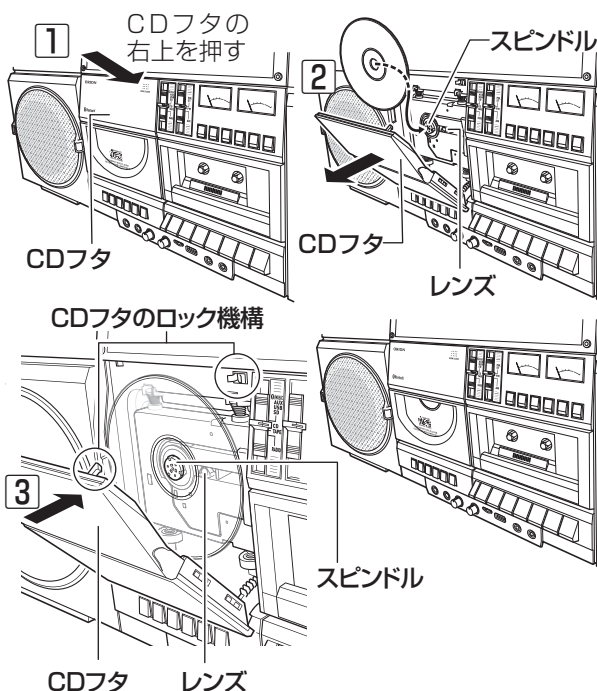
- 液晶表示部に「CD」ランプが点灯し、ディスクが入っていないことを示す「no」表示が出ます。



2. CDフタの右上を押して開き①、CDを取り付ける②

CDフタの右上にある「OPEN/CLOSE」の部分を押してください。

- 液晶表示部に「OP」表示が出ます
- CDはラベル面を手前にして、内部にあるスピンドルに取り付けてください(8cmCDも同様)。
- CDの損傷や故障を避けるため、確実に取り付けてください。



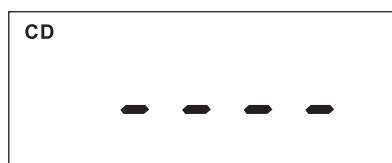
- レンズ部分に絶対に触れないように注意する。
レンズが傷ついたり、汚れが付着する原因になります。
- 音楽CD、MP3 CD以外取り付けない。
データCDやDVDなどを取り付けると、異音発生することがあり、耳を痛め、スピーカーなど故障の原因になります。

3. CDフタの右上を押して閉める③

CDフタの右上を押して確実に閉めてください。

- ※ 右上にCDフタのロック機構があります。
- 液晶表示部に「———」表示が出て、CDの読み込みを始めます。
- 読み込みのできないディスクの場合「no」表示が出て回転が止まります。

《液晶表示部》 CDランプが点灯



- CDフタはむやみに開かない。
再生中などCDが高速で回転しており、CD破損やケガをする原因になります。

4. 自動的に再生が始まるので、CDを操作する

曲番号1から再生が開始されます。
液晶表示部には再生時間が表示されます。

▷||PLAY/PAUSE 再生/一時停止 ㊦

- 再生します。再生中に押すと一時停止し、もう一度押すと、一時停止を解除して再生を再開します。

>>FF 早送り ㊧

- 曲順をひとつ送ります。
- 最後の曲で押すと、最初の曲に戻ります。
- 長押しで早送りする(再生位置を進める)ことができます。

<<REW 早戻し ㊨

- 曲順をひとつ戻します。
- 長押しで早戻しする(再生位置を戻す)ことができます。

STOP STOP 停止 ㊩

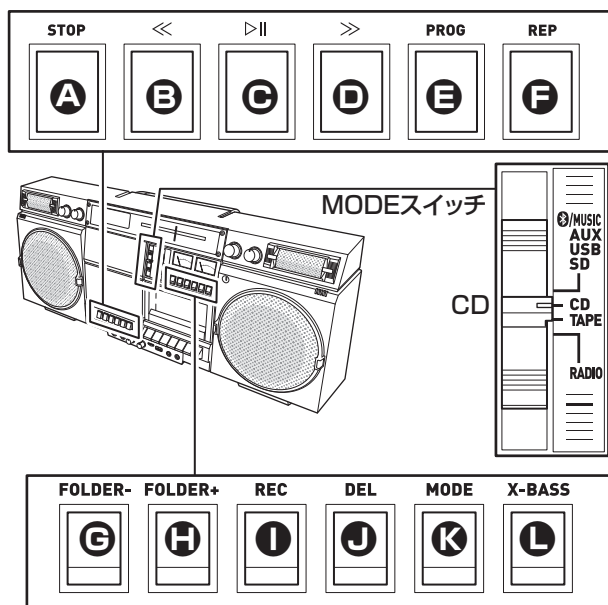
- 再生を停止することができます。

リモコンの数字のボタン

- 数字ボタンで、聴きたい曲番号を押すことでダイレクトに選曲できます。

5. CDを聴き終えたら、音量を最小にして、STOP STOPボタン㊩を押して確実に停止させる

大音量のまま電源を切ると、次回使用するときには大音量が出て、耳やスピーカーに悪影響をおよぼす原因になります。



㊩ STOP	STOPボタン CD(USB/micro SD)の停止
㊨ <<	REWボタン 曲順をひとつ戻す 長押しで早戻し
㊦ ▷ 	PLAY/PAUSEボタン CD(USB/micro SD/BT)の再生/一時停止
㊧ >>	FFボタン 曲順をひとつ送る 長押しで早送り
㊥ PROG	PROGボタン プログラムモードの入/切
㊦ REP	REPボタン リピートモードの選択(1曲/全曲/ランダム/切)



- 確実にCDを停止させてからCDフタを開く。
CDは高速で回転しており、CDが飛び出る可能性があります、けがやCD破損の原因になります。
- レンズ部分に触れないように注意する。
レンズが傷ついたり、汚れが付着する原因になります。

6. 聴き終えたCDをはずしてケースに戻し、CDフタを閉める

- CDを取り付けたままにしておくと、故障やCDが歪む原因になります。
- CDフタを開いたままにすると、ホコリがたまり、故障やエラーの原因になります。

アンチショックメモリー機能

本機はCDのアンチショックメモリー機能(本体に大きな衝撃が加わったときにCDの音飛びを防止する機能)を搭載しています。

CDから読み取った音源データをいったん本体の内蔵メモリーに取り込み、再生をしています(約90秒の音源をメモリーしています)。

内蔵メモリーがいっぱいになった場合、CD再生中でもCD盤の回転が止まることがあります。故障ではありません。

内蔵メモリーデータが少なくなったときに、またふたたび回転を開始します。

CD を聴く (つづき)

特殊再生

繰り返し再生・ランダム再生

本機は、繰り返し再生・ランダム再生ができます。
 ・音楽CD、CDまたはUSBメモリー・microSDに記録されたMP3ファイルで使用できます。

1. 再生中に、REPボタンを押す
 液晶表示部の「REP」が点灯します。
2. REPボタンを押すたびに繰り返しモードが変わる

REPが点滅: 1曲繰り返し再生

1曲が繰り返し再生されます。

REPが点灯: 全曲繰り返し再生※

全曲が繰り返し再生されます。

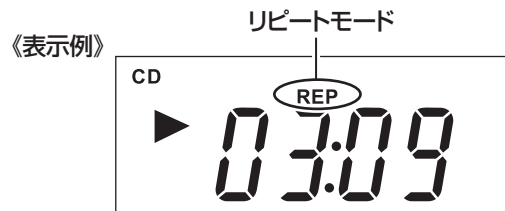
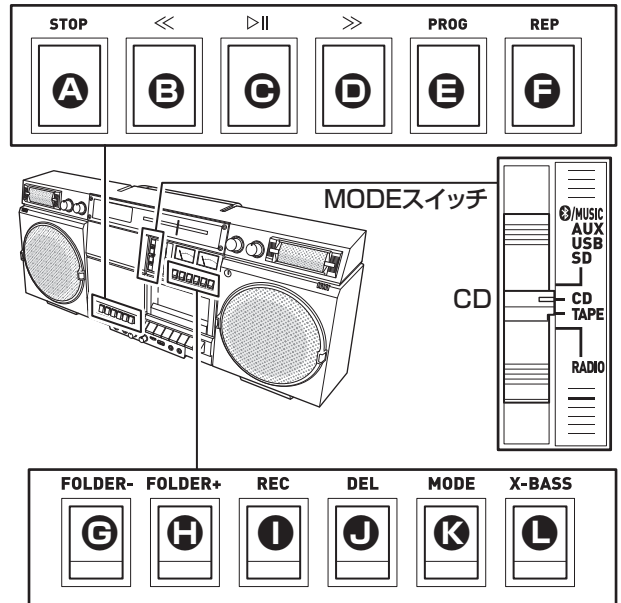
RANDが点灯: ランダム再生

ランダム再生されます。

REP FOLDERが点灯: フォルダー全曲繰り返し再生※
 フォルダー内全曲を対象に繰り返し再生されます。

※ 音楽 CD の場合はフォルダー全曲繰り返し再生はできません。

3. リピート・ランダム再生をやめるときはREPボタンを何度か押して液晶表示部の「REP」「RAND」を消灯させる



プログラム再生

本機は、お気に入りの曲をお好みの順番で再生するプログラム再生ができます。

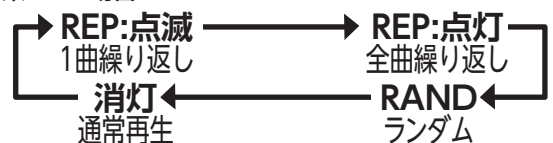
・音楽CD、CDまたはUSBメモリー・microSDに記録されたMP3ファイルを使用できます。

1. 停止中に、PROGボタンを押す
 液晶表示部の「PROG」が点灯し、「P01」と表示され、点滅します。
2. 順に<<REWボタン>>FFボタンを使って選曲し、PROGボタンを押して登録する

PROGボタンを押すと、次のプログラム番号(P02など)が表示されます。

・選曲にはリモコンの数字ボタンを使用してダイレクトに選曲することもできます。

音楽CDの場合



MP3 CD・USBメモリー・micro SD の場合



プログラム再生の場合



- ・最大20曲まで登録できます(20曲目を登録すると、「FUL」と表示されます)。

※プログラム途中の曲の変更や削除などの編集はできません。

※全曲からの選曲になりフォルダを指定しての選曲はできません。

3. PLAY/PAUSEボタンを押すと、プログラム再生が始まる

プログラム再生中は、通常の再生同様に早送り・早戻し、次の曲・前の曲、一時停止と自由に操作することができます。

- ・プログラム再生が終わると
 - ・CDは停止状態になります。
 - ・USBメモリーまたはmicro SDカードはプログラム再生の1曲目に戻って繰り返し再生されます。
- ・再度プログラム再生するには再度|| PLAY/PAUSEボタンを押します。

プログラムの消去

- ・停止中に**STOP**ボタンを押すと、液晶表示部の「PROG」が消灯し、登録したプログラムが消去されます。
- ※CDモードから他のモードへの切替、電源を切る、ディスクの取り出しなどの操作でもプログラムは消去されます。

CDに記録されたMP3ファイルを聴く

本機は、CDに記録されたMP3ファイルを聴くことができます。

1. MP3が記録されているCDをCDフタを開いて取り付ける

液晶表示部に「MP3」が点灯し、再生が始まります。

MP3ファイルが認識されない場合

ファイルごとに拡張子(.mp3)が正しく付けられているか確認してください。

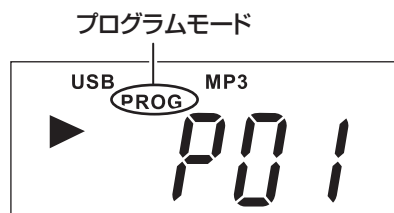
拡張子が付いていないと音楽ファイルを認識しません。

また、実際のファイル形式と違う拡張子が付いていると、異音を発生して機器の故障や耳の障害を生じることがありますので、ご注意ください。

2. 通常のCDの操作のほか、フォルダの変更をFOLDER-ボタン、FOLDER+ボタンでフォルダの切り替えをする

自動でフォルダに番号を振って、「F01」から表示します。

《表示例》

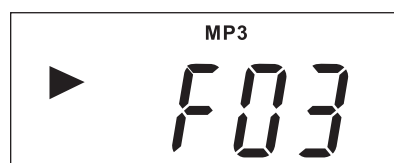


〈USB・SD 停止時の表示例〉

《表示例》



《表示例》



3. 特殊再生：MP3ファイル再生中にREPボタンを押して1曲リピート・フォルダリピート・全曲リピート・ランダム再生設定する

カセットテープを使用する

カセットテープを操作するには、本体右下のカセット操作部を使います。

※「カセットテープについて」(➡ 4 ページ) もお読みください。

カセットテープを再生する

1. MODEスイッチを「TAPE」の位置にする

2. **STOP/EJ** ボタン  を押してカセットホルダーを開け①、カセットテープを入れる②

カセットテープは右のイラストのようにテープが見える側を下に、聴きたい面を手前にして入れます。

3. カセットホルダーを閉める③

カセットホルダーの真ん中を押して、「カチッ」と音がするまで確実に閉めてください。

4. カセット操作部のボタンでカセットテープを操作する

PLAY 再生 

・再生します。

PAUSE 一時停止 

・再生中・録音中に一時停止します。もう一度押すと、再開します。

FFWD 早送り 

・早送りする(再生位置を進める)ことができます。

REW 巻戻し 

・巻戻しする(再生位置を戻す)ことができます。

STOP/EJ 停止/取り出し 

・カセットテープの再生・録音を停止することができます。

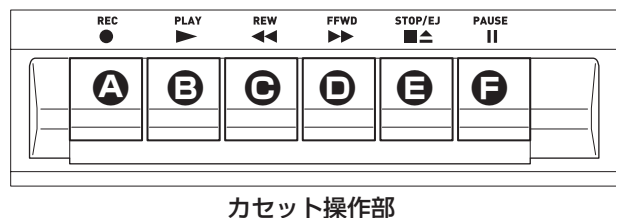
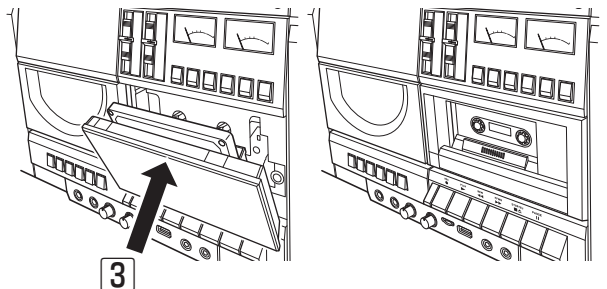
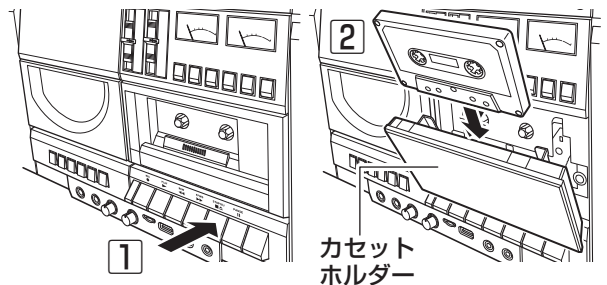
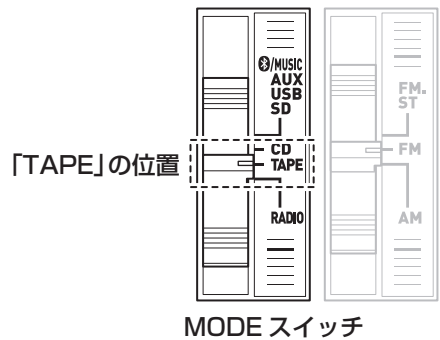
・早送り・巻戻しを解除することができます。

・カセットテープが停止状態のときに押すと、カセットホルダーが開きます (EJ=EJECT)。

5. カセットテープを聴き終えたら、**STOP/EJ** ボタン  を押して確実に停止させる

・本機はフルオートストップ機能が搭載されています。再生・録音・早送り・巻戻しをしたときにテープの最後までいくと自動的に停止します。

・操作部のボタンがすべて戻っていることを確認し、戻っていなければ **STOP/EJ** ボタン  を押してください。



カセットテープに録音する

本機は、以下の音声をカセットテープに録音することができます。

- ・本機内蔵マイク ・CD ・外部マイク
- ・AUX端子(外部入力端子)に接続された機器
- ・接続されたBluetooth機器
- ・USBメモリー/microSDカードに収録された音声データ
- ・ラジオ(AM、FM)

1. STOP/EJボタンを押してカセットホルダーを開け、カセットテープを入れる

カセットテープはテープが見える側を下に、聴きたい面を手前にして入れます。

2. 録音したい音声を再生する

録音レベルは自動調節されます。

再生方法は各モードの説明ページをお読みください。

CDから録音する

MODEスイッチを「CD」の位置にして、CDを再生します(➡12ページ)。

ラジオから録音する

MODEスイッチを「RADIO」の位置にしてラジオを受信させます(➡19ページ)。

AUX外部入力機器から録音する

MODEスイッチを「BT/AUX/USB/SD」の位置にしてAUX端子に外部再生機器を接続します(➡20ページ)。

- ・接続ケーブルをAUX端子に接続すると自動的にAUXモードになります。

Bluetooth機器から録音する

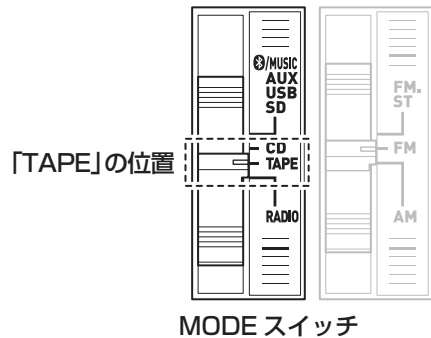
MODEスイッチを「BT/AUX/USB/SD」の位置にしてBluetooth機器を接続し、再生させます(➡22ページ)。

USBメモリー/microSDカードから録音する

USBメモリーまたはmicroSDカードを本体に取り付け、MODEスイッチを「BT/AUX/USB/SD」の位置にしてUSBメモリーまたはmicroSDカードを再生させます(➡23ページ)。

本機内蔵マイクから録音する

MODEスイッチを「TAPE」の位置のまま録音することができます(➡18ページ)。



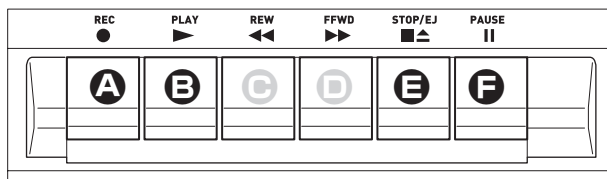
注意

録音する外部機器の音量設定に注意する。
Bluetooth機器やAUX入力機器など外部機器で出力の音量を調節してください。
音量が大きすぎると音が割れ、小さすぎると音がノイズに埋もれてしまい、正しく録音できません。

カセットテープを使用する（つづき）

3. カセット操作部の ^{REC} RECボタン[Ⓐ]を押すと録音が始まる

- ^{REC} RECボタン[Ⓐ]を押すと ^{PLAY} PLAYボタン[Ⓑ]も同時に押されます。
- 録音中に本機の音量つまみを操作しても録音に影響ありません。
- テープの最後までいくと自動的に録音を停止します。



カセット操作部

4. 録音を一時停止するには ^{PAUSE} PAUSEボタン[Ⓒ]を押す

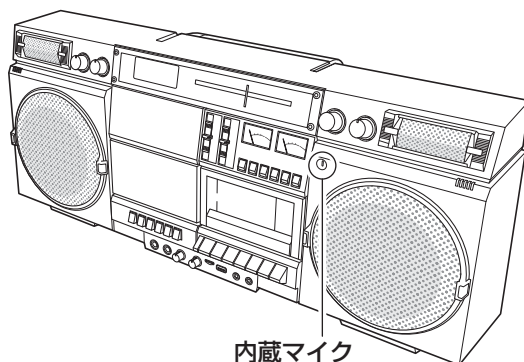
- もう一度、^{PAUSE} PAUSEボタン[Ⓒ]を押すと録音が再開されます。

5. 録音を停止するには ^{STOP/EJ} STOP/EJボタン[Ⓓ]を押す

内蔵マイクから録音する

本機にはマイクが内蔵されています(右側のみ・モノラル)。MODEスイッチを「TAPE」の位置にして ^{REC} RECボタンを押すと、まわりの音を録音することができます。

- 大切な録音のときは、試しに録音してみるなど、十分にテストを行なってください。



内蔵マイク

録音可能ソース一覧

録音先	ソース								
	Bluetooth	カセットテープ	ラジオ	CD	USBメモリー	MicroSD	AUX	内蔵マイク	外部マイク
カセットテープ	○	×	○	○	○	○	○	○	○
USBメモリー	○	○	○	○	×	×	○	○	○
MicroSD	○	○	○	○	×	×	○	○	○

ラジオを聴く

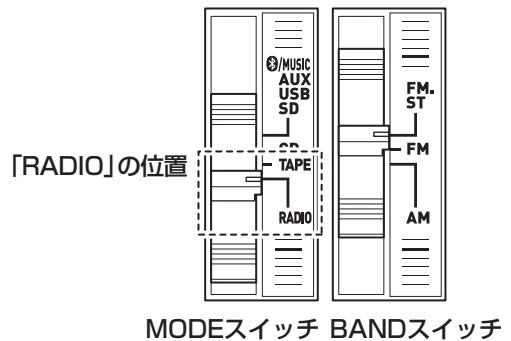
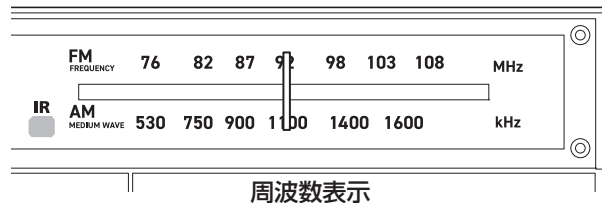
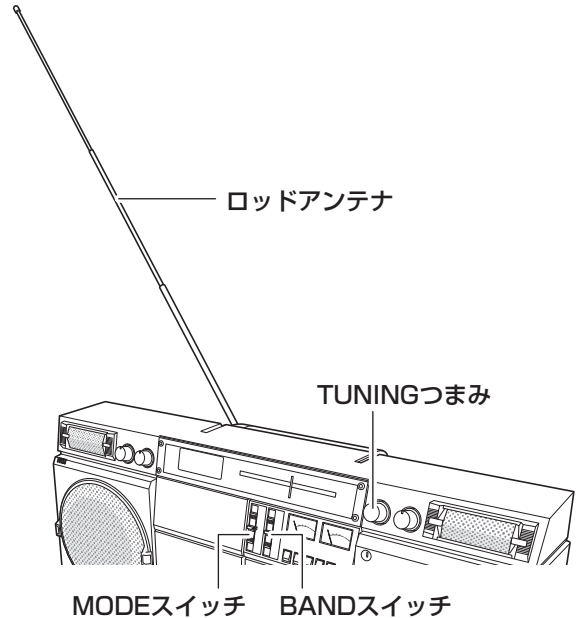
FMラジオ・AMラジオを聴く

本機ではFM放送とAM放送を聴くことができます。
FM放送は 76～108MHz の受信ができ、FM補完放送（ワイドFM）に対応しています。

1. MODEスイッチを「RADIO」の位置にする
2. BANDスイッチで「AM」または「FM.ST」を選ぶ
3. TUNINGつまみで聴きたいラジオ局の周波数に合わせる

周波数表示を目安にTUNINGつまみを回し、ラジオ局の周波数に合わせます。

- 受信状態を向上させるには、電波をできるだけさえぎらないように、より窓際へ設置します。
- FM放送の受信状態を向上させるには、ロッドアンテナを伸ばしたり、角度を変えたりしてください。
- BANDスイッチが「FM.ST」のときに、FM放送受信でステレオ受信すると、液晶表示画面の「ST」が点灯します。
- AM放送の受信状態を向上させるには、AMのアンテナが本体内部にあるため、本体の向きや高さを変えてください。



4. 「FM.ST」でFM放送が聴きにくい場合は、BANDスイッチを「FM」にする

FM放送の電波が弱く、安定したステレオ受信ができないときなどは、「FM」にすることによって聴き取りやすくなります（FM放送はモノラルになります）。

5. ラジオを聴き終わったら、MODEスイッチを「TAPE」の位置にする

電源が切れます。



注意 テレビの近くでAM放送を受信すると雑音が入ることがあります。
テレビなどから離して使用してください。



注意 ラジオを聴かないときは、ロッドアンテナをたたんでおく。
けが・破損・故障の原因になります。

ラジオの音声は、カセットテープ（⇒17）、USBメモリ、micro SDカード（⇒25ページ）に録音することができます。

AUX外部入力を聴く

AUX端子(外部入力端子)に接続した外部機器の音を聴く

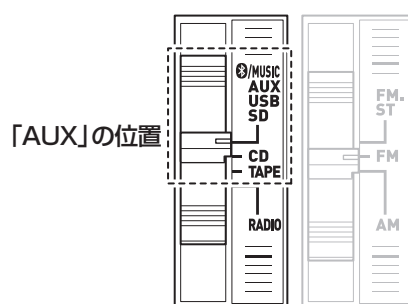
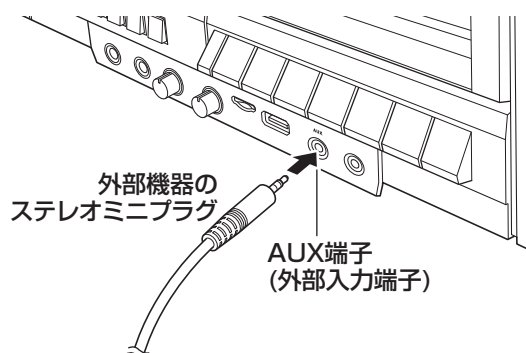
本体前面のステレオミニ端子に接続した機器の音を聴くことができます。

1. MODEスイッチを「BT/AUX/USB/SD」の位置にする
2. 前面のAUX端子(外部入力端子)に外部再生機器を市販のステレオミニプラグで接続する

AUX端子(外部入力端子)に接続した外部機器の音を聴くことができます。

- ・同じMODEスイッチの他の機器(Bluetooth・USB・SD)が接続中でも、接続すると強制的にAUX外部入力が再生されるようになります。
- ・AUX端子(外部入力端子)接続中は他の接続(BT/USB/SD)は再生できませんので、他の接続を聴くときは、取りはずしてください。

外部再生機器に出力レベルを調節する機能がある場合は、慎重に調節してください。



MODE スイッチ



外部機器の音量設定に注意する。

大きすぎると音が割れ、小さすぎると音がノイズに埋もれてしまう原因になります。

3. 音量つまみを回して、適切な音量に調節する

音量つまみを左に回すと音量が小さくなり、右に回すと音量が大きくなります。

4. AUX外部入力を聴き終えたら、MODEスイッチを「TAPE」の位置にする

電源が切れます。

AUX外部入力の音声は、カセットテープ(⇒17ページ)、USBメモリー、micro SDカード(⇒25ページ)に録音することができます。

AUX外部入力の音声をカセットテープに録音するときは、接続した音源の出力レベル(音量など)に注意してください。(⇒17ページ)

Bluetooth機器を聴く

Bluetooth機器の設定

- Bluetoothデバイスの接続設定をすることを「ペアリング」といいます。
 - ペアリングするときは、両方の機器を1m以内に置いてペアリング設定をしてください。
 - 本機は一度に1台のBluetooth機器しか接続できません。
- ※「Bluetoothについて」(➡5ページ)もお読みください。

本機は以下の手順でBluetooth機器と接続（ペアリング接続）することができます。

Bluetooth 機器との初めての接続

- 本体前面からUSBメモリー・microSDカードを取りはずす
- ペアリングしたいBluetooth機器の電源を入れる
Bluetooth接続モードにしておきます。
- 本機のMODEスイッチを「BT/AUX/USB/SD」の位置にする
液晶表示部に「PAIr」という文字が点滅します。



- 接続するBluetooth機器のサーチ機能を利用して、本機の製品名「SCR-B9」を検索する

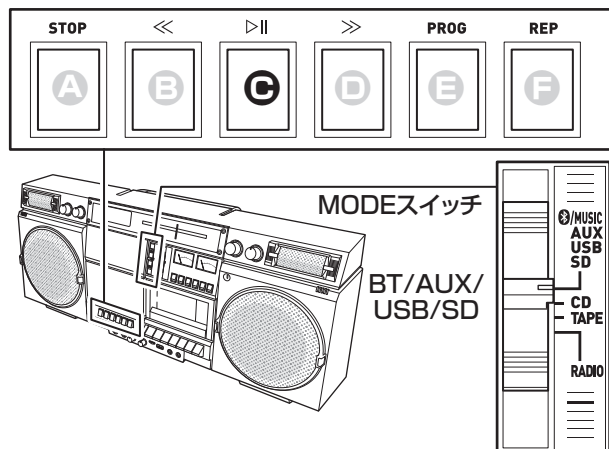
検索が完了すると、接続する外部機器のディスプレイに「SCR-B9」が表示されますので、それを選択し「ペアリング」を開始します。

※ペアリング接続・設定方法は、お使いのBluetooth機器の取扱説明書をご覧ください。

※PINコードが要求された場合は、4桁の数字「0000」を入力してください。

- 接続が成功すると、信号音が鳴る

液晶表示部の「PAIr」が点滅から点灯になります。



Bluetooth機器との2回目以降の接続

一度ペアリングをしたBluetooth機器は、2回目以降は自動的に接続されます。再接続されないときは、「Bluetooth機器との初めての接続」の手順に従って再度接続してください。

※接続するBluetooth機器によっては、自動的に接続されないことがありますが、本機の故障ではありません。

別のBluetooth 機器との接続

別のBluetooth機器を本機に接続したいときは、現在接続されている機器の接続を切断してください。本機は一度に1台の機器しか接続できません。

- 接続していた外部機器のBluetooth機能をオフにする
 - 接続中の外部機器に表示されている、本機の製品名「SCR-B9」の登録を解除します。
- 別の外部機器と「Bluetooth機器との初めての接続」を行なう
- 接続できないときは、前面操作部のPLAY/PAUSEボタンⓈを長押しして、再度「Bluetooth機器との初めての接続」を行なう

※Bluetooth機能の接続、切断操作につきましては、お手持ちの外部機器の取扱説明書もあわせてご確認ください。



本機は SCMS-T に対応していません。接続するBluetooth機器がSCMS-T対応のときは、ご使用になれないことがあります。詳しくはお使いのBluetooth機器の取扱説明書をご確認ください。

Bluetooth 機器を聴く (つづき)

Bluetooth機器の再生と操作

Bluetooth機器の音楽をワイヤレスで楽しむことができます。

1. 「Bluetooth機器との初めての接続」の設定・ペアリングを行なっておく

2. 本機とBluetooth機器が接続していることを確かめる

※ Bluetooth機能の接続、切断操作につきましては、お手持ちの外部機器の取扱説明書もあわせてご確認ください。

3. 本機に接続したBluetooth機器で再生を始める

前面操作部のボタンで、接続したBluetooth機器のコントロールができます。

※ 接続したBluetooth機器の音声出力レベルにも注意してください。出力レベルが小さい場合は正しく再生されないことがあります。

本機で操作できるBluetooth外部機器の機能

▷|| PLAY/PAUSEボタン **C** 再生／一時停止

>> FFボタン **D** 順スキップ

<< REWボタン **E** 逆スキップ

※ このコントロールする機能は、BluetoothのAVRCPプロファイル対応機器との接続時のみ機能します。

※ お使いのBluetooth機器によっては正しく操作できない場合があります。

4. 再生を終えたら、MODEスイッチを「TAPE」の位置にする

電源が切れます（カセット操作部を操作していない場合）。

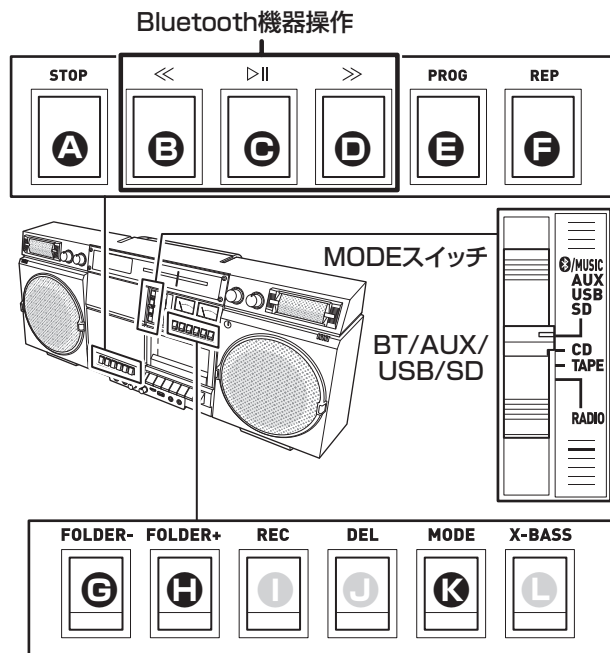
microSDカード・USBメモリーからBluetooth再生への切り替え

ほかのメディア（micro SDカード・USBメモリー）接続・再生中にBluetooth受信に切り替えることができます。

1. 前面操作部のMODEボタン**K**を何度か押して、液晶表示部に「PAir」を点滅させる

2. 本機とBluetooth機器が接続していることを確かめる

USB/microSD/BTをMODEボタンで切り替えたときは、液晶表示部に各モード名が表示されます。



Bluetooth接続して再生や録音をしているとき、接続状況（まわりの環境や電波障害など）によって正しく再生・録音ができないことがあります。

送信側のBluetooth機器とは受信に問題ない距離を保ち、間に障害物を置かないなど、安定した接続ができるように注意してください。



本機はBluetoothレシーバー（受信機）機能を持つものであり、Bluetoothトランスミッター（送信機）機能はありません。そのため本機のカセットテープや外部入力の音を送信して、Bluetoothヘッドホンで聴くことはできません。

本機の音をBluetooth機器で楽しむには、ステレオミニプラグ対応の市販のBluetoothトランスミッターを購入し、イヤホン端子に接続して送信してください。

USBメモリー/micro SDカードのMP3を聴く

本機では、USBメモリー/micro SDカードに記録されたMP3ファイルを再生することができます。

※「USBメモリー、micro SDカードについて」(⇒4ページ)もお読みください。

1. MODEスイッチを「TAPE」の位置にする

2. USB端子にUSBメモリーを接続する、またはmicro SDカードの場合はmicro SDカードスロットに接続する

右図のようにmicro SDカードは金属端子部分を上側・micro SDカードのラベル面を裏側にして、「カチッ」と音がするように取り付けてください。

3. MODEスイッチを「BT/AUX/USB/SD」の位置にする

- USBメモリーとmicro SDカードについては、後から接続、認識したメモリーが優先して再生されます。
- AUX端子に外部入力接続されると、AUX外部入力が優先されて接続されます。

4. 自動で再生が開始される

5. 前面操作部のボタンで操作する

▷|| **PLAY/PAUSEボタン**  再生／一時停止

>> **FFボタン**  順スキップ

次の曲を再生します。

・最後の曲の次は、最初の曲に戻ります。

>> FFボタンを長押し：早送り

<< **REWボタン**  逆スキップ

ひとつ前の曲を再生します。

・最初の曲の前は、最後の曲にスキップします。

<< REW ボタンを長押し：早戻し

STOPボタン 

再生中の曲を停止させます。

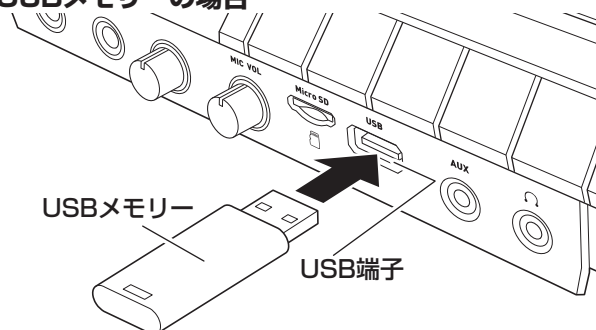
MODEボタン 

モードの切替(Bluetooth・USBメモリー・micro SD)ができます。

RECボタン 

本機で録音したファイルがあるフォルダと、本機以外で作成されたファイルがあるフォルダを切り替えます。
RECボタンを長押し：録音(⇒25ページ)

USBメモリーの場合



micro SDカードの場合



FOLDER-ボタン  / **FOLDER+** 

再生する曲のファイルがあるフォルダを選択します。

PROGボタン 

好きな曲を好きな順番でプログラム再生できます。CDでのプログラム再生の操作と同じです(⇒14ページ)。約50曲まで登録できます。

REPボタン 

再生時のリピート機能の切替をします(⇒14ページ)。

6. STOPボタンで再生を停止させる

7. 再生を終えたら、MODEスイッチを「TAPE」の位置にする

電源が切れます。

USBメモリー/micro SDカードのMP3を聴く(つづき)

⚠注意

- 電源を切る前にUSBメモリー/micro SDカードを抜き差ししない。
データが破損する原因になります。
- ファイルに適切な拡張子 [.mp3] を付ける。
拡張子が付いていないと、音楽ファイルと認識しません。また、実際のファイル形式と違う拡張子が付いていると、異音を発生する恐れがあります。
- USBメモリー/micro SDカードの抜き差しをするときには、(金属にさわるなどして)体の静電気をなくしておく。
空気が乾燥して静電気が起こりやすい環境のとき、USBメモリー/micro SDカードを扱うと、データを破壊してしまうことがあります。
- 本機のUSB端子でスマートフォンや携帯電話の充電はできません。
- 本機はmicro SDカード専用です。

Bluetooth・USBメモリー・micro SDカードの切り替え

複数のメディア (Bluetooth受信・USBメモリー・micro SDカード) が接続・受信されている場合、それぞれを切り替えて聴くことができます。

1. 前面操作部のMODEボタンを押す

押すたびにBluetooth・USBメモリー・micro SDカードが切り替わります。



⚠注意

micro SDカード・USBメモリーの接続中 (動作インジケータの点灯・点滅中) に取り付け・取りはずしをしない。

※ USBメモリーとmicro SDカードの選択がわかりにくいとき (特に特定のメディアに重要な再生・録音をするとき) は、片方のみ接続して操作しやすくしてください。

⚠注意

録音するもののみ (USBメモリー／micro SDカード) 接続する。
録音時まちがって録音してしまう混乱を防ぎます。

PAI r

USB

U5b

CARD

CAr d

接続されていないものがあれば
飛ばして切り替わります

USBメモリー/microSDカードにMP3録音する

録音可能ソース一覧

録音先	ソース								
	Bluetooth	カセットテープ	ラジオ	CD	USBメモリー	MicroSD	AUX	内蔵マイク	外部マイク
カセットテープ	○	×	○	○	○	○	○	○	○
USBメモリー	○	○	○	○	×	×	○	○	○
MicroSD	○	○	○	○	×	×	○	○	○

USBメモリー/microSDカードに録音する

本機では、以下の音声をUSBメモリー/microSDカードにMP3ファイル形式で録音することができます。

・カセットテープ ・ラジオ ・Bluetooth ・CD
・AUX端子(外部入力端子) ・外部マイク ・内蔵マイク

※「USBメモリー、microSDカードについて」(➡4ページ)もお読みください。

1. 録音するメディアを取り付ける(USB端子にUSBメモリーを接続する、またはmicroSDカードの場合はmicroSDカードスロットに接続する)

録音するUSBメモリーまたはmicroSDカードのみ接続し、録音しないメディアは、取り付けないでください。

2. 録音したい音声を再生する

カセットテープから録音する

MODEスイッチを「TAPE」の位置にしてカセットテープを再生させます(➡16ページ)。

ラジオから録音する

MODEスイッチを「RADIO」の位置にしてラジオを受信させます(➡19ページ)。

CDから録音する

MODEスイッチを「CD」の位置にして、CDを再生します(➡12ページ)。

AUX端子(外部入力端子)から録音する

MODEスイッチを「BT/AUX/USB/SD」の位置にしてAUX端子に外部再生機器を接続します。

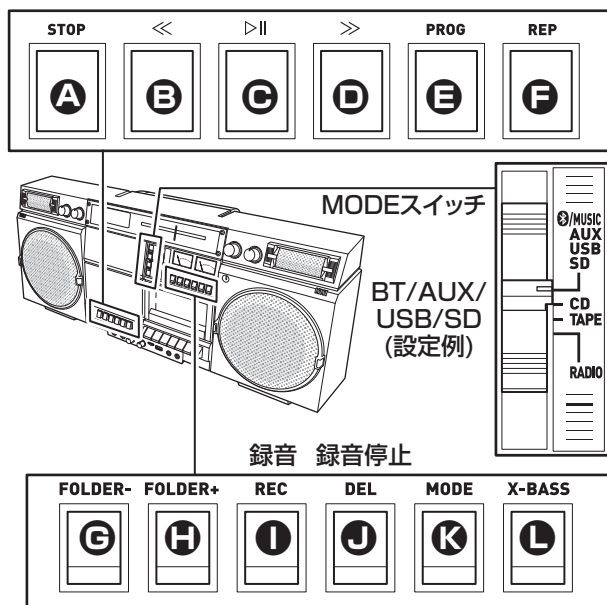
・接続ケーブルをAUX端子に接続すると自動的にAUXモードになります。

Bluetooth機器から録音する

MODEスイッチを「BT/AUX/USB/SD」の位置にしてBluetooth機器を接続し、再生させます(➡22ページ)。

本機内蔵マイクから録音する

MODEスイッチを「BT/AUX/USB/SD」の位置にすると、内蔵マイクから録音することができます。



3. 前面操作部のRECボタン①を長押しして録音を開始させる

録音が始まると、液晶表示部に「REC」が点灯し、録音先の表示(USBメモリーは「USB」、microSDは「CARD」)が点滅します。

REC点灯 録音先(USB・CARD)が点滅



4. 録音を停止させるには、DELボタン②を押す

動作が停止すると液晶表示部から「REC」が消灯します。

※STOPボタン(A)を押しても、CDなどの再生を停止するなどの機能が割り当てられており、録音の停止には機能しません。

5. 録音を終わたら、MODEスイッチを「TAPE」の位置にする

電源が切れます。

USBメモリー/microSDカードにMP3録音する(つづき)

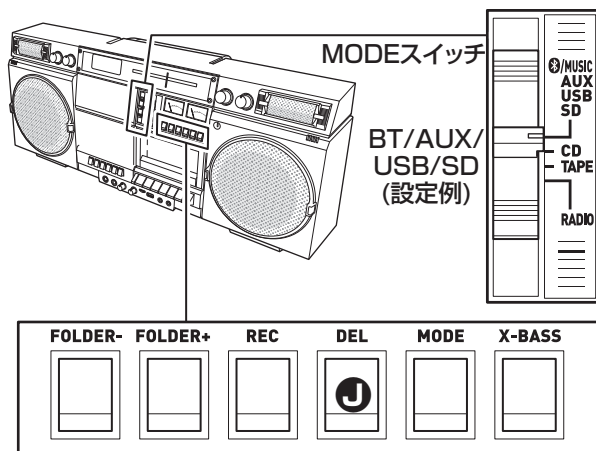
USBメモリー/microSDカードに録音された音声の消去

録音を失敗したときなど、録音した音声を消去することができます。

1. 「USBメモリー/microSDカードを聴く」(23ページ)に沿って消去したい音声を再生する

2. 再生中に正面操作部のDELボタンを長押しして消去させる

- 液晶表示部に「dELE」と表示して削除中を示します。
- 再生していた音声が消去され、次の音声が生再生されます。



注意

元に戻すことができないため、消去は慎重に行なう。

取り付けておくのは、消去するファイルが保存されたmicroSDカード・USBメモリーのみ取り付けておくようにしてください。

作成されるファイルについて

- USBメモリー、microSDカードに録音すると自動で「JL_REC」というフォルダが作成されます。
- 最初の録音をすると、フォルダ内に「FILE0001.MP3」というファイルが作成され、それから順番に数値が大きくなったファイル名で音声ファイルが作成されます。
- 作成されるファイル

コーデック	MP3
ビットレート	128 kbps
サンプリングレート	44.1 kHz

- 録音されたファイルは、フォルダ内の最後に作成されます。



注意

再生機器との互換性に注意する。

本機でUSBメモリー/SDカードに録音された音源は、再生機器との互換性の関係で再生できない場合があります。

お手入れのしかた

⚠ 警告

- 修理技術者以外の人は分解や修理をしない。
- お手入れの際は、必ず電源プラグをコンセントから抜く。乾電池をすべて取りはずす。
感電・火災・けがの原因になります。

⚠ 注意

- ベンジン・シンナーでは拭かない。
変色や変形の原因になります。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従って使用する。
変色・キズの原因になります。
- 本体に水をかけたりしない
感電・故障の原因になります。

本体のお手入れ

本体の汚れは、ぬるま湯か台所用洗剤に浸してかたくしぼった柔らかい布で拭き取り、さらに乾いた布でやさしく拭きをしてください（樹脂部分は強くこすらないでください。傷つきの原因となります）。

カセットヘッド部のクリーニング

カセットのヘッドやキャプスタン、ピンチローラーは長時間使用すると磁粉やゴミ、ホコリなどが付いて汚れてきます。汚れがひどくなると、音質が悪くなったり、音が小さくなる、前の音が消えないで残る、などの症状がでます。カセットホルダーを開け、市販のクリーニングキットで清掃します。ホコリなどは、市販のクリーニングキットのブロワーを使って掃きだしてください。

- 綿棒にクリーナー液*1をしみこませ、ヘッド（テープに触れる面・特に色が変わっている部分）やピンチローラー、キャプスタンを拭き取ります。
- クリーナー液*1を使用した場合、十分乾いてからテープを取り付けてください。乾く前に取り付けると、録音内容が消えるなど、テープに悪影響を与えます。

*1 市販のカセットヘッドクリーナー液が手に入らない場合は、無水エタノールを使用してください。

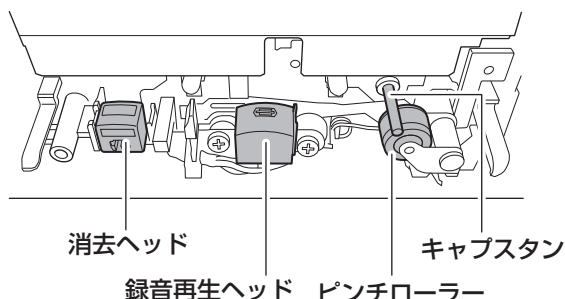
※「免責事項」（➡5ページ）も必ず確認ください。

CDレンズ部のクリーニング

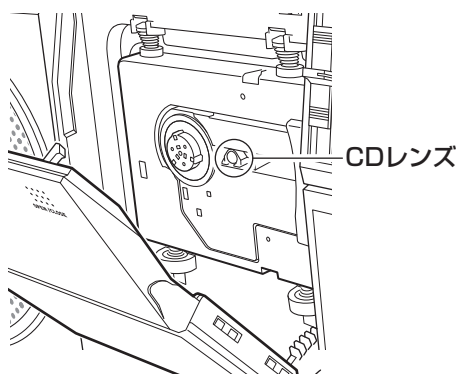
基本的にはCDレンズ部に触れると、CDレンズ部に傷が付くため、**CDレンズ部には触れないでください**。ただしCDレンズ部に不用意に触れたりすることが多々あると手の油脂分などが付着したりしてCDの読み取りが悪くなることがあります。

- 自己責任の上、慎重に市販のCDレンズクリーナーを使用してください。クリーニングしすぎるとCDレンズをかえて傷つける原因になります。
- 湿式の場合、クリーニング液多いと、CDプレーヤー内に飛び散るなどすると、悪影響が出る場合があります。それぞれレンズクリーナーの取扱説明書をお読みになって対応してください。

※「免責事項」（➡5ページ）も必ず確認ください。



※ ●RECボタンと▶PLAYボタンが押されて録音再生ヘッドと消去ヘッドが出てきている状態



CDレンズ部に水滴が付いた場合

本機を寒い部屋から暖かい部屋に持ち込んだりすると、CDの信号面・CDレンズがくもり、正しくCDを再生できなくなることがあります。

その場合は、拭いたりせず、本機の電源が入った状態で30分～1時間ほどそのままにしておくと、まわりの温度に順応し、問題なく再生できるようになります。

修理・サービスを依頼する前に

⚠警告 修理技術者以外の人は分解したり修理をしない。

「故障かな？」と思ったときには次の点をお調べください。

症状	主な原因	処置
共通部		
電源が入らない	電源コードがはずれている	電源コードを本体の電源端子に、電源プラグをコンセントに接続する
	乾電池が消耗している	新しい乾電池に交換する
	乾電池の向きがおかしい	乾電池を正しく入れなおす
音が出ない	MODEスイッチが目的のモードに設定されていない	MODEスイッチを目的のモードの位置にする
	イヤホン端子にイヤホンが接続されている	イヤホンを取りはずす
イヤホン端子にイヤホンを接続しても正しく聴こえない	イヤホンのミニプラグが奥まで差し込まれていない	ミニプラグを奥まできちんと差し込む
	4極以上のミニプラグのイヤホンを使用している(4極以上のミニプラグは正しく使用できないことがあります)	3極のステレオミニプラグイヤホンを使用してみる、または変換プラグなど使用してみる
マイクの録音音質がよくない	マイクの前に障害物がある	マイクの周りを確認する
雑音が入る	近くで電波など発する機器(携帯電話など)を使用している	電波など発する機器から離す、もしくは電波など発する機器を離す
正常な動作をしない		一度電源プラグを抜いて接続しなおす、または乾電池をはずして入れなおす

CD部		
再生が始まらない	CDフタが正しく閉じられていない	CDフタを正しく閉じる
	CDを裏返しに取り付けている	CDのラベル面を手前にして取り付ける
	CDが汚れている	CDをクリーニングをする
	CD-R/CD-RWがファイナライズされていない	録音した機器でファイナライズされたCDを使用する
	CDが著作権保護技術でエンコードされている	ディスクによっては再生できない
	結露状態になっている	露の付かない場所に移動し結露を乾燥させる
音がとぶ	CDに大きなキズがある	CDを修復する
MP3を読み取らない	フォーマットが違う	ISO9660でフォーマットして書き込む
	書き込んだセッションが違う	MP3は一度にすべてを書き込む(マルチセッションには対応していません)
	拡張子「.mp3」が付いていない	拡張子「.mp3」を付ける
曲が繰り返し再生される	リピートモードになっている	リピートモードをオフにする
曲が順番通りに再生されない	プログラムモードになっている	プログラムモードを抜けてノーマルモードにする
再生中なのにディスクが回転していない	アンチショックメモリーによって先読みしているため(➡13ページ)	問題ありません

症状	主な原因	処置
ラジオ部		
雑音が入る	テレビなどが近くにある	テレビなどから離す
	乾電池が消耗している	新しい乾電池に交換する
	電波状態が悪い	・ロッドアンテナを立てる (FM) 、窓ざわなどで試してみる ・BANDスイッチが「FM.ST」の場合は「FM」に切り替えてみる
Bluetooth部		
音が出ない	Bluetooth機器との距離が遠い	Bluetooth機器と本機に近づける
	無線LANや電子レンジ、無線機器などの影響を受けている	影響しそうな機器の使用をやめてみる
	正しくペアリングされていない	もう一度ペアリングしてみる
	SCMS-Tの送信	本機はSCMS-Tに対応していません
音が出ない・音が小さい	Bluetooth機器の出力音量が0になっている・音量が小さくなっている	Bluetooth機器の音量を調節する(音量を上げる)
ペアリングできない	Bluetooth機器との距離が遠い	Bluetooth機器と本機を1m以内に近づけてペアリングする
	Bluetooth機器側の問題	電源など十分に確保してから試してみる
	先に別のBluetooth機器が接続されている	別のBluetooth機器が接続されていないか確認し、切断する
Bluetooth機能が動作しない	AUX端子(外部入力端子)に接続がある	AUX端子(外部入力端子)の接続をとりはずす
本機の音を他のBluetooth機器で聴けない	本機のBluetooth機能は受信機能のみ	市販のBluetoothトランスミッターなどを購入して接続し送信する
USBメモリー部		
USBメモリーに切り替わらない	AUX端子(外部入力端子)に接続がある	AUX端子(外部入力端子)の接続をはずす
USBメモリーを認識しない	USBメモリーがFAT32以外のファイルシステムでフォーマットされている	USBメモリーをFAT32でフォーマットしなおす
	USBハブなど介して接続している	本体に直接接続する
	大容量のものを使用している	64GB以下のものを使用する
	HDDを接続している	USBメモリーを使用する
録音されない	容量がいっぱいになっている	不要なファイルを消去する
充電されない	本機のUSB端子は充電に非対応	充電には使用しない(できない)
SDカード部		
SDカードに切り替わらない	AUX端子(外部入力端子)に接続がある	AUX端子(外部入力端子)の接続をはずす
microSDカードを認識しない	microSDカードがFAT32以外のファイルシステムでフォーマットされている	microSDカードをFAT32でフォーマットしなおす
	大容量のものを使用している	64GB以下のものを使用する
	正しく取り付けられていない	挿入方向など確認し正しく取り付ける
録音されない	容量がいっぱいになっている	不要なファイルを消去する

修理・サービスを依頼する前に（つづき）

症状	主な原因	処置
カセットデッキ部		
カセットが入らない	逆向きに入れようとしている	テープが見える側を下にして入れる
テープが機械に巻きつく	ピンチローラーやキャプスタンが汚れている	クリーニングをする（➡27）
	テープがたるんでいる	たるみをなくしてから入れる
	長時間テープを使用している	90分以上のテープは薄く、静電気などの影響で巻きつきやすいため使用しない（➡4）
音がとぶ	ヘッドが汚れている	ヘッドをクリーニングする（➡27）
録音ができない	ヘッドが汚れている	ヘッドをクリーニングする（➡27）
	カセットテープが入っていない	カセットテープを入れる
	カセットテープの消去防止ツメが折れている	ツメの部分をテープでふさぐ（➡4）
	リーダーテープ部分に録音しようとしている	リーダーテープ部分には録音できません
録音された音が割れていた／録音された音が小さい	録音したときに入力レベルが大きかった／小さかった	Bluetooth機器またはAUX入力機器から録音をするときは、出力を調節して、入力レベルに注意する
前の録音が完全に消えない	ヘッドが汚れている	ヘッドをクリーニングする
	ノーマルテープ以外のテープを使用している	ノーマルテープを使用する
雑音が多い 音質がよくない	ヘッドが汚れている	ヘッドをクリーニングする
	乾電池が消耗している	新しい乾電池に交換する
	古いカセットデッキでN.R.(ノイズリダクション)を使用して録音したテープを再生している	本来同じN.R.搭載のデッキで再生する必要がありますが、どうしても本機で再生する場合は、N.R.に対応していないため音質を調節して対応する
外部入力部		
音が出ない	正しく接続されていない	正しく取り付ける
音が出ない・音が小さい	- 外部機器の音量が0になっている - 外部機器の音量が小さくなっている	外部機器の音量を調節する(音量を上げる)

長年ご使用の製品はよく点検を

このような症状はありませんか？

- ・電源コードや電源プラグが異常に熱い。
- ・コードを動かすと、通電したり、しなかったりする。
- ・こげ臭い匂いがする。
- ・その他の異常・故障がある。

このような症状のときは、事故防止のため、すぐに電源を切り、コンセントから電源プラグを抜いて、必ず販売店またはドウシシャカスタマーセンターに点検をご相談ください。

主な仕様

仕 様

電 源	2電源方式	AC100V 50/60Hz DC12V 単1形乾電池×8本
	消費電力	45 W (動作時。スタンバイ時4.5 W)
アンプ部	定格出力(THD:10%)	10 W + 10 W 総合20W
	再生周波数帯域	80Hz - 16KHz
	音質コントロール	高音、低音 (独立)
	重低音再生	X-BASS
スピーカー部	2Way バスレフ	13.5 cm フルレンジ
		3.0 cm ツイーター
	最大許容入力	15 W
	インピーダンス	4 Ω
ラジオ部	2バンド	デジタルチューナー
	FM	76.0 - 108.0 MHz
	AM	530 - 1629 kHz
カセットデッキ部	方式	2ヘッド ステレオ録音/再生 フルオートストップ
CD部	再生可能ディスク	8 cm/12 cm CD、CD-R、CD-RW
	再生可能フォーマット	CD-DA、MP3(MPEG-1 Audio Layer3、MPEG-2 Audio Layer3)
	再生モード	1曲リピート/全曲リピート/プログラム再生(最大20曲)
Bluetooth部	バージョン	5.3 Class2
	対応コーデック	SBC
	対応プロファイル	A2DP、AVRCP
USB端子部 ・ SDカード スロット部	USBバージョン	2.0
	SDカード形状	microSDカード
	再生フォーマット	MP3(MPEG-1 Audio Layer3、MPEG-2 Audio Layer3)
	最大メモリー容量	64GB
	ファイルシステム	FAT32
	最大曲数/フォルダー数	999曲/99フォルダー
	録音形式	MP3、ビットレート:128 kbps、サンプリングレート:44.1 kHz
乾電池連続使用 時間*	ラジオ受信時/CD再生時 カセットテープ再生時 USB/SD MP3再生時 Bluetooth接続時	約 30 時間 約 22 時間 約 33 時間 約 33 時間
サイズ	外形寸法	(約) 幅670×高さ275×奥行180 mm
	質量	(約) 6.8 kg (本体のみ)
付属品		ワイヤレスリモコン×1、リモコンテスト用単4形乾電池×2、電源コード×1、取扱説明書・保証書×1

* ボリューム30%、新品のアルカリ乾電池使用時。

* 周囲の温度や使用条件により、連続使用時間は異なることがあります。

● 仕様などは改善・改良のため、予告なく変更することがあります。

● この製品を使用できるのは日本国内のみで、海外では使用できません。

(This unit can not be used in foreign countries as designed for Japan only.)

株式会社ドウシシャ

〈東京本社〉〒108-8573 東京都港区高輪2-21-46

〈大阪本社〉〒542-8525 大阪府大阪市中央区東心斎橋1-5-5

■故障・修理についてのご相談に関しては…

⇒ドウシシャ カスタマーセンター

〒915-0801 福井県越前市家久町41-1

【営業日】平日9:00～17:00 【休業日】土日祝日、年末年始、当社指定日

TEL 0778 (24) 2779 FAX 0778 (24) 2799

※ 製品名、型番をご確認のうえ、お電話をいただきますようお願い致します。

※ FAXもしくは、お電話をいただいた際にお話いただく情報は、お客様へのアフターサービスにおいて利用させていただきますので、ご了承ください。